

節目に一言

古希を迎えて

佐藤 勲 (昭和40年 機械科卒)

東京秋工会 幹事

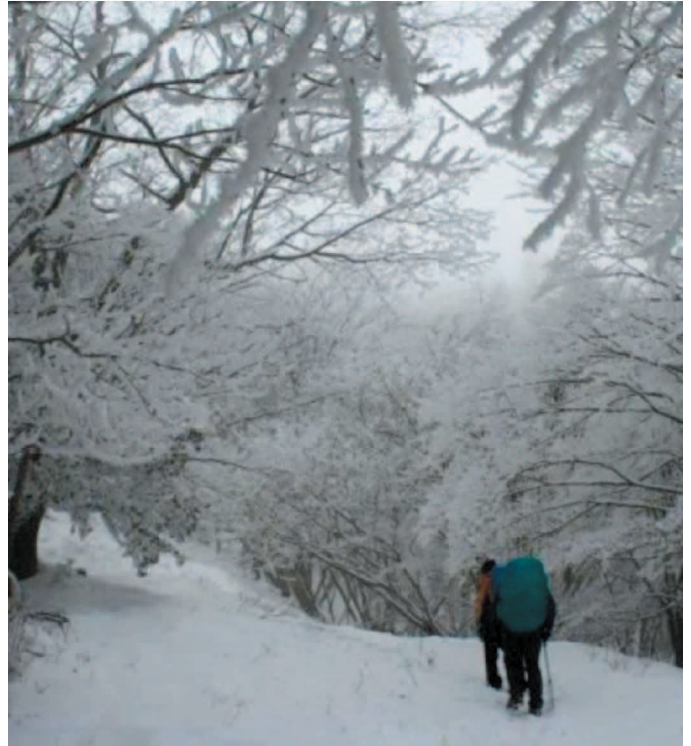


とうとう私は70歳の大台に乗ります。つまり古希というわけです。70年も生き長らえた事はめでたくもあります。残りの年月を思えば寂しくもなります。日本人の男性の寿命が80歳になった今日、私の残り人生は10年か長くても20年ほどでしょう。あと10年もすると私は本当に死んでしまうのか、不思議な感覚になります。70歳という年齢は、誰がなんと言おうと高齢者であり、人生の締めくくりを考えるようになる年齢だと思いますが、凡人の私は何故か天寿が近付いている事の認識が殆ど無いのです。毎日を惰性で生きて、これからもそんな風にして生きていくのかと、漠然と考えています。せめて魂を奮い立たせて生きたいものです。

☆年寄りのひや水 (川苔山1363m登山)

〈紙面をお借りして、70歳の川苔山ハイクに触れてみます。〉

桜がそろそろ開花すると思われる春3月に東京秋工会ハイキング同好会のメンバーと奥多摩の川苔山へ登りました。41K氏、41E氏、そして私40Mの古希前後の3人です。川苔山への谷添いの登山道は狭くて谷側は底の見えない断崖絶壁が続いています。絶壁の所々には、栈橋や梯子がへばりつくように架かっていました。その栈橋や梯子には雪が積もっていて、大変に危険な状態でした。私は老化現象で平衡感覚や遠近感の能力が低下している為、いつになく緊張して通過しました。このような栈橋を何ヶ所も渡った後、いよいよ尾根への取りつきになります。この尾根では夏道が積雪の下で判らない為に、先行者



川苔山 縦走路

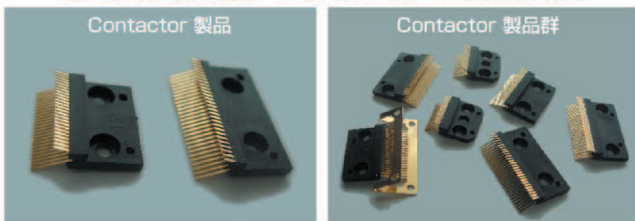
の踏跡を信じてトレースをしました。この踏跡は計画した道より遠回り、長い時間、縦走路を歩くはめになりました。午後1時に3人が辿り着いた川苔山の頂は雪に覆われ、粉雪が舞っていました。そして、樹々は着氷し、とても寒々しい風景でした。寒くてもとりあえずビールで乾杯。ドクターストップの41E氏はノンアルコールビールをロング缶で持って来ていましたが、この寒さでは飲みきれないと思ったのか、アルコールの苦手な41K氏に無理やり分けてあげていました。粉雪の舞う山頂で、樹氷を眺めながら飲む冷えたビールは、格別な旨さです。「この旨さ、皆には判るかな?判らないだろうな・・・」昼食後に東京秋工会ハイキング同好会旗を広げて、寒さに身を縮めながら写真を撮りました。何も見えない、寒い山頂に長居は無用とばかりに、早めの退却を決断し、アイゼンを装着しました。私のアイゼンはバンドを4個の輪に通す古い型です。若い頃は手袋をつけたまま出来たものですが、今回は手袋を取って素手でバンドを通す事にしました。指先が冷えて、かじかんで、あっという間に指の感覚が無くなってしまいました。どうせ直ぐに外す事になるから、バンドの末端の処理をいい加減に済ませました。このような事が年老いた証拠なのでしょう。かじかんでいる指は手袋をはめても、ポケットへ入れても、感覚が戻りません。加齢で末端の血流が悪くなっているのでしょう。このままだと凍傷になりそうだ、という事で十本の指を口の中へ突っ込んで暖めることとしました。徐々に指の感覚が戻って来ました。これは良い暖房方法だが、他人からの見た目は気になります。

杉林の下山道では積雪が薄くアイゼンの爪に雪団子がくっつき、ガレ場では爪が岩を引っかいていたので、そろそろアイゼンを外そうかと思っていた時、木の根に爪を引っかけて激しく尻餅をつきました。外傷は無かったのですが、これをきっかけに内腿がつってしまいました。サロンパスを内腿へ吹きつけましたが、痛みはなかなかとれてくれませんが、若い頃は足がつった時、歩きながら治したものでしたが、今回はつった足をかばいながら歩くので他のふくらはぎや腿の裏なども、つり気味になりました。朝の9時前から夕方5時過ぎまで山道を歩き、3人が里道へ辿り着いた頃、気の早い車は前照灯を点けて走っていました。

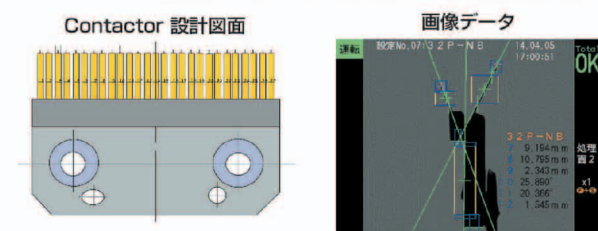
若い頃、この川苔山は何度か通り抜けた事があります。秩父側からソバ粒山を越えて、奥多摩駅から本仁田山を越えて等々。遠い昔の事です。70才の今回は川苔山だけで、このていたらくでした。

株式会社 オー・ティ・ティ・エス
OTTS CO.,LTD

IC等の測定端子 Contactorの製造、販売



- 製品の特徴
- ① 設計から納入まで Turn-Key Service
 - ② 長寿命 Long Life / 14Pin で200K回の実績
 - ③ 高品質 全て Made in Japan の材料と Process



代表取締役 田中 誠悦 (昭和32年工業化学科卒)

〒193-0834 東京都八王子市東浅川町211-6
TEL : 042-666-1927 FAX : 042-664-7909